

## 関西広域連合宮城チーム

### 宮城県北部沿岸市町被災地支援派遣第4陣の支援活動について

4月8日から17日にかけて、7日間にわたり関西広域連合の一員として、宮城県北部沿岸市町被災地支援派遣第4陣として宮城県石巻市への支援に行ってきましたので報告いたします。

#### 1. 第4陣派遣部隊の体制（合計30名）

- ・気仙沼市 8名（徳島県4名、阿南市2名、小松島市1名、石井町1名）
- ・南三陸町 8名（徳島県4名、徳島市2名、阿波市1名、那賀町1名）
- ・石巻市 6名（吉野川市1名、徳島県2名、鳴門市2名、板野町1名）
- ・女川町 8名（徳島県5名、三好市1名、海陽町2名）

#### 2. 支援日程

4月8日	12時30分	徳島県庁出発
9日	6時10分	宮城県庁到着
	7時50分	石巻市役所到着
		第3陣より引き継ぎ
	午前	石巻市総合運動公園で石巻市役所担当と打合せ
	午後	被害状況視察（渡波町、魚町、南浜町、門脇町他）
10日		支援物資等の搬入・搬送等業務
11日		同上
12日		同上
13日		同上
14日		同上
		（4月21日からの学校再開に向けた準備作業が始まる。）
15日		同上
16日		同上業務と第5陣への引き継ぎ
	16時10分	石巻市役所出発
17日	12時	徳島県庁到着

#### 3. 従事した業務内容

- ・支援物資の搬入・搬出準備
- ・学校再開に伴う準備作業（新たな避難予定箇所への物資搬送等）

#### 4. 石巻市の状況

平成17年4月1日に石巻市・河北町・雄勝町・河南町・桃生町・北上町・牡鹿町の1市6町が合併し、現在の石巻市が誕生し、人口約16万人の宮城県下第

二の都市である。

石巻市の震災の状況として、岩手県から流れる北上川が石巻市に入ったところで二手に分かれ、それぞれ追波湾と仙台湾に注ぎ、市東部の牡鹿半島は、北上山地の最南端に位置し、風光明媚なリアス式海岸となっている。このことが津波による被害を増大させ、水没地域が広範囲に広がり、水没地域が今回の被災自治体の中で最大となったと聞きました。被災当時は石巻市役所及び周辺市街地も2日間腰高までの水が引かず、その影響が1ヶ月後においても鼻をつく臭いが印象に残っています。

また、特に被害が甚大であった旧北上川河口付近の魚町では、水産物卸売市場をはじめ多くの水産物加工等の事業所が壊滅的な状況であり、鉄骨だけが残された倉庫等が並んだ状況でした。

4月2日現在、市内には148避難所に19,544人の方々が避難されている状況であり、今後避難所となっている小・中学校等の再開に伴い、避難所の再編・縮小が今後の課題である。

## 5. 石巻市での支援作業について

市役所災害対策本部で物資を担当している産業部の人的支援として、物資配送拠点である石巻市総合運動公園で支援物資の搬入・搬出等の業務を行いました。

4月上旬とはいえ、吉野川市より5度前後気温が低いこともあり、避難所での暖房器具が欠かせず、支援作業の前半は、主に避難所における暖房用灯油の搬出準備を行いました。また、後半は4月21日からの学校再開に向けた避難所予定箇所への物資の搬入、避難所から不要物資の回収を市役所職員の方々と行いました。

## 6. 支援作業で感じたこと

被災から約1ヶ月という時期で、宿泊地が派遣前日（4月7日）の強い余震で営業できなくなり、急遽宿泊先が仙台市内に変更され、携帯電話の緊急地震速報が1日1回は鳴る状況での支援活動となりました。

支援の内容について、市災害対策本部におけるポジションが明確でなかったため、配属された物資担当の市産業部職員との意思疎通が不十分であり、また、物資の搬入が少なく、手持ちぶさたの時間もあり、緊急事態とはいえ支援員として有効な活動ができなかったことが少し残念に思いました。

最後に、避難所の自治組織の整備状況により避難所に格差が生まれていた現状に鑑み、避難所における人員の配置や物資の搬入等については、その体制づくりが重要であると感じました。特に、被災後相当日数経過後において、自主防災組織の活用等により避難所の自治組織確立の重要性を痛感しました。

短期派遣ではありましたが、経験することができない体験ができ、市役所職員の「必ず石巻市は復興します！」との言葉を聞き、将来必ず復興した石巻市を訪れたいと強く思いました。

## 7. 現地の状況



石巻市役所前



支援物資拠点である石巻市総合運動公園



魚町周辺の被災状況



南浜町周辺の被災状況



日和山から見た石巻市沿岸部